

■平経高 公卿。詳細な日記「平戸記」を遺し、公家政治の実態・京中の庶政・関東の政情など知ることができる。

たいらのつねたか

源氏一斉蜂起1180＝ 生。父は治部大輔平行範。

はじめ吉田経房の猶子となり、

平氏滅亡・・・1185＝ 5歳：

奥州藤原滅亡1189＝ 9歳：

源頼朝上洛・1190＝10歳：平姓に復す。叙爵。

鎌倉幕府始・1192＝12歳：

・・・1198＝18歳：

源頼朝没・・・1199＝19歳：

執権政治始・1203＝23歳：

専修念仏禁止1207＝27歳：

紀伊守・諸京官・蔵人を経て、

・・・1211＝31歳：右少弁に任じ、

北条覇権確立1213＝33歳：

・・・1216＝36歳：

弁官にあること十年、

愚管抄・・・1220＝40歳：_右大弁から蔵人頭となり、

承久の乱・・・1221＝41歳：

親鸞真宗始・1224＝44歳：従三位(非参議)に叙す。

北条政子没・1225＝45歳：

公家将軍始・1226＝46歳：*参議に任じ、

道元曹洞宗始1227＝47歳：_この年以降の記事が一部伝存する日記は、平姓と官名民部卿(唐名戸部尚書)とから「平戸記」といい、鎌倉中期四条・後嵯峨朝の公家政治の実態、京中の庶政、関東の政情などに関して徴すべきところが多い。

御成敗式目・1232＝52歳：

金滅亡・・・1234＝54歳：

・・・1235＝55歳：*致仕。

以後5年間は散位のままであったが、

・・・1240＝60歳：*政事・公事の故実に通じたその学識によって民部卿の官を得、朝廷および摂関家の諮問にあずかった。弁官を長く勤め官底の実務に通暁していたことから、公私にわたって相論・訴訟裁決に関する諮問を受けることが多く、「平戸記」は鎌倉中期公家法制の実態を探るうえでも貴重な記録となっている。この年の「徳政」の記事が特筆される。また民部卿としての職責から京中庶政の記事が散見され、この年、京中諸酒屋に対し一宇別供酒1升ずつを宛て課すことを請う造酒司の解(げ)を載せており、この種の史料の初期の事例として注目される。鎌倉幕府とそれに加担する勢力に対してつねに批判的であり、泰時すらをも「異域蛮類」と称して憚らなかったが、また幕府の口入によって実現した後嵯峨即位にも批判を加え、

北条泰時没・1242＝62歳：_夢想に託して新主・帝王の何人たるべきかを論じている。

鎌倉大仏完成1243＝63歳：

・・・1245＝65歳：反幕の動きが発覚したことを記しており、承久の乱後の公武関係に関連して注目される

北条時頼執権1246＝66歳：

・・・1250＝70歳：*再び致仕。位は正二位に至って、

・・・1251＝71歳：「徳政」の記事が特筆される。そこでは、制符(公家新制)にかかわる神仏事の興行、儉約の励行、叙位任官の秩序振肅、記録所の興行などが「徳政の沙汰」とされるとともに、「諸訴の決断」が「徳政の最要なり」と認識されていたことが記される。

・・・1255＝75歳：_没した。